

4.6 惣村と一揆：教科書 p.88～89、資料集 p.75～76

<農業の発達>

〔室町時代の農業の発達〕

- ①二毛作の普及…畿内から関東へ、さらに畿内では三毛作も行われた。
- ②稲の品種改良…早稲、中稲、晩稲など
- ③大唐米の輸入…病虫害や干害に強い、多収穫の品種
- ④鉄製農具の普及…鋤、鋤、鎌など
- ⑤施肥…刈藪や草木灰に加え、下肥(人糞尿)も使用されるようになった。

↓

こうした農業技術の発達は、村人同士の協力や分業化を進め、
村内における団結を高める効果があった！

<惣村の進展>

＊惣村(/惣)…村人の自治によって運営される村

⇒荘園領主や地頭らの支配に抵抗したり、村同士で争ったりする際の単位となった

〔惣村の実態〕

- ・惣百姓…惣村を構成する村民。
地侍層(乙名、沙汰人など)と小農民層に分かれる。
- ・寄合…村の指導者層が神社などに集まって、惣掟などについて協議するもの
- ・惣掟…寄合において定められた村の規約。
- ・自検断…惣掟に基づいて村民自らが警察権や裁判権を行使すること。
- ・入会地…個人の所有でない村共用の山野地で、共同で農業生産を行った。
- ・地下請…領主に代わって村の名主や百姓が共同で荘園の管理や年貢の徴収を請け負う制度。

〔荘園領主との争い〕

- ・惣村は、年貢の減免などを巡って荘園領主としばしば争った
 - ①強訴…惣村が団結して領主層に対して年貢の減免などを威圧的に訴えること。
 - ②逃散…年貢減免などの要求が受け入れられない場合に、村が団結して耕作を放棄し、他の村や山中に一時的に退去すること。
- ⇒これらの争いを「荘家の一揆」といった

＜正長・嘉吉の土一揆＞

—第4代将軍 足利義持(在職:1394～1423)—

- ・政治的に安定した時代であった

—第5代将軍 足利義量—

- ・早世する(=若くして亡くなった)

—将軍がいない期間：政治的に不安定な時期—

1428年(正長元年) 凶作のため疫病・飢饉が広がる

⇒正長の土一揆 勃発…近江の馬借が徳政令を求めて蜂起

⇒近江の守護や興福寺などは徳政令を出したが、幕府は応じなかった
ので、徳政令は限られた地域でしか適用されなかった

(※土一揆…惣村を基盤とする土民の反抗活動を指す。)

—第6代将軍 足利義教(在職:1429～41)—

- ・強圧的な専制政治を行ったため、各地の有力守護は不満を持った！

1438年 永享の乱…×鎌倉公方：足利持氏 vs ◎関東管領：上杉憲実
将 軍：足利義教

1441年 嘉吉の変…播磨の守護 赤松満祐が将軍足利義教を暗殺！

↓

代始めの徳政(将軍が代替わりしたときに出す徳政)を求めて…

1441年 嘉吉の徳政一揆 勃発…山城の地侍ら数万人規模の一揆

⇒幕府、全国一斉の徳政令を出す

つまり、幕府の弱体化・動揺が見られるようになった